

問

「十和田湖と八郎太郎」ゆかりの地めぐりと北限の桃狩りツアーから見た課題と展望は。旅行商品化に向け「食」や「歴史・文化」などのコンテンツを組み入れた磨き上げが必要。行程の広域化など時間をかけて取り組む。

答



新型コロナワクチンについて

問

予防接種健康被害救済制度における新型コロナウイルス接種による健康被害の認定件数が、制度開始以降の新型コロナウイルスを除く全てのワクチン接種による健康被害件数を上回ったが、その安全性について市の見解は。

答

副反応による健康被害は少なからず発生する可能性はあるものの、厚生労働省の評価では「引き続き接種を継続していくこととしてよい」と示され

問

県は2025年から、現在のあきたこまちを、新品種「あきたこまちR」へ全量転換する計画としているが、開発に放射線の一つを照射した品種との交配を繰り返している。その安全性と品質について市の考えは。

答

放射線育種は、品種改良の一般的な手法で、県では、放射線が残存していることもなく、品質や特性も同等であると公表している。カドミウム含有米の発生防止と生産における省力化につながると認識している。

質問した項目

- 新型コロナウイルスについて
- 三湖伝説ツアーについて
- あきたこまちRについて

湯瀬 弘充 議員（鹿真会・公明）

質問時間 30分



録画配信はこちらから

倉岡 誠 議員（誠心会）

質問時間 30分

質問した項目

- ヤングケアラーについて

問

家事や家族の世話のために、子供の経験の機会やその将来を奪う事態を招かないよう、相談や支援の取り組みを進めるべきだが、本市における実態をどのように認識し、今後どのような支援を行っていくのか。

答



毎月開催している生活困窮者支援調整会議において、各機関に寄せられた生活困窮や福祉的課題の相談について、情報の共有や課題解決に向けた協議を行っており、この中でヤングケアラーの疑いがあるケースについて聞き取りや関係機関との情報共有を行っているが、これまで実際にヤングケアラーと認定した事例はない。国が実施した抽出調査や県が県内の行政機関や介護事業所、病院などを対象に実施した

調査では、ヤングケアラーが一定数確認されたが、これらの調査結果では、ヤングケアラーの概念の認知度や相談支援のつながり、支援の難しさが課題として上げられており、ヤングケアラーの概念が浸透しなければ、実態把握やその先の相談や支援に繋げることは困難であると考えられている。市ではヤングケアラーの概念が多くの方に認知されるよう周知に努めるとともに、関係機関と連携しながら支援に取り組む。また、現在、民生委員を通じてヤングケアラーの有無について調査をしており、結果を支援体制に反映していく。



録画配信はこちらから